

スポーツとは、人生のすべて



大垣市体育連盟 総合企画委員会委員長 高橋 正紀

◎青少年時代のスポーツとの関わりについてお聞かせください。

小学生時代は、特定の種目はしていませんでした。町内会のソフトボールや、野山を駆け回ったり、海に潜ったり、遊びまわっていました。

中学校に入ってからは、陸上部に入部しました。そして、陸上部顧問の二宮先生との出会いは、私の今の考え方のベースとなっています。先生は論理的で、生徒が内発的に自ら活動できるような指導をしてくださっていました。なので、私の中で内発的にスポーツをすることが当たり前となりました。

高校は厚木高校に入学し、友達がサッカー部の勧誘を受けたのですが、なぜか私が入ることになりました。当時の厚木高校サッカー部は強くて、神奈川県でも上位に入る実力でした。

その後、筑波大学に進学し、大学でもサッカー部に所属しました。

◎現在行っているスポーツはありますか。

2年ぐらい前から、40歳代から80歳代までの選手がいる岐阜OBサッカークラブに入りました。15年のブランクがあり、週1回2時間程度練習をしていましたが、半年ほど活動したぐらいから昔痛めた股関節が痛みだしたため、しばらく休んでいました。ですが、今年の2月と3月に1回ずつ練習を再開しはじめ、今年の秋口には本格的に復帰しようと思っています。

また、以前、スキーをやっていたこともあり、2年前に再開しはじめ、前シーズンも2、3回滑りに行きました。

私は現在60歳ですが、焦らずケガをしないように、10年計画で「70歳になった時の俺はすごいぞ!」となるように、コツコツと練習を積み重ねていっています。5年後、10年後、すごい姿を見せられるように頑張ります。

◎これまでに一番印象に残っていることは何ですか。

私はドイツに留学していた時期があるのですが、そこで起こったグッドルーザー（良き敗者）体験が印象に残っています。私は留学期間中に地域サッカーチームに所属し、ディフェンスの選手としてプレーしていました。そして、ある試合で相手チームを無失点にお

さえ勝利しました。その試合終了後、相手チームの選手が私の方に寄ってきて「ありがとう。君の守備はすごかった。」と握手を求められ、私のプレーをほめたたえてくれました。今までそのような体験をしたことがなかったため、一瞬何が起きたのかと戸惑いましたが、負けを潔く認め、相手を素直にたたえられる彼の態度に感動するとともに「だからドイツのサッカーは強いんだな」と感じました。

◎大垣市のスポーツ振興についてお考えなどありますか。

先日、今後の大垣市のスポーツ振興の参考となる愛知県豊田市での事例を聞きました。豊田市は11の総合型地域スポーツクラブがあり、また、地元の中京大学や名古屋グランパスなどのスポーツチームもあります。その両者が連携してスポーツチームの応援ツアーなどを実施することで、一帯となってスポーツで地域を盛り上げていくことができています。そして、地域が盛り上がることで、地元企業からの支援が得られるなどの好循環ができています。また、中学校部活動地域移行化の問題の一つである指導者の確保にも繋がります。豊田市は先ほど述べたように、地域での繋がりががあるため、中京大学の学生やスポーツチームの選手などを指導者として、各中学校へ派遣することで指導者問題を解決することができます。そこで、豊田市における総合型クラブを大垣市体育連盟とした時に、大垣市も企業の一体感があることや西濃運輸野球部などの地元スポーツチームもあるため、実現可能な参考事例になると思います。

◎高橋委員長にとってスポーツとは・・・

『人生のすべて』ですね。私は、今までの人生や、これから死ぬまでスポーツに関わっていくことになると思います。90歳まで現役で全国行脚して講演会などを実施し、スポーツの普及・振興をしていきたいです。
※1

インタビュアー：スポーツ広報委員会 田中委員長

※1 高橋委員長は岐阜協立大学経営学部教授であり、医学博士号を取得した「スポーツパーソンのこころ」の講演会などを全国各地で行っています。